

# 合同教育研究会議（5月12日開催）議事概要

## 1 開催日時

令和3年5月12日（水）13:00～14:40

## 2 場所

本部棟3階 特別会議室

## 3 出席者

鈴木学長、石堂副学長兼高等教育推進センター長、狩野副学長兼研究・地域連携本部長、宮野副学長兼事務局長、猪股教育支援本部長、三上学生支援本部長、橋本企画本部長、劉国際教育研究部長、福島看護学部長、高橋社会福祉学部長、亀田ソフトウェア情報学部長、高嶋総合政策学部長、川崎盛岡短期大学部長、松田宮古短期大学部長、菅原委員（学外委員：岩手大学名誉教授）、長谷川委員（学外委員：製品評価技術基盤機構理事長）  
（事務局）鈴木事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、鎌田学生支援室長、藤澤研究・地域連携室長、北島企画室長、高橋宮古事務局長、八木主幹、渡部主査

## 4 会議の概要

### 議事録確認

前回会議4月14日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

### 審議事項

なし

### 協議事項

#### (1) 岩手県高等教育地域連携プラットフォームの設置について（資料 No. 1）

北島企画室長から資料に基づき、岩手県高等教育地域連携プラットフォーム設立について説明があり、本学の参加について協議があった。

協議の結果、原案のとおり承認された。

委員から、地域の活性化のために、高等教育が人材育成に果たす役割は大きく、本学においても中心的な役割を果たしていただきたいとの意見があった。

鈴木学長から、プラットフォームについてはデータサイエンス、リカレント教育等、プラットフォームの基になった議論を考えると、本学の果たす役割は大きいとの発言があった。

また、委員から、プラットフォームにおける機関ごとの役割をみると、中心となるのは大学であり、積極的な活動を期待するとの意見があった。

### 意見交換

#### (1) 令和3年度後期の履修登録等について

高嶋総合政策学部長から、前期の履修登録状況について、教室の収容人数をオーバー

し、教室調整で混乱が生じたため、後期の履修登録に際して調整の仕方を共有したいとの説明があった。

委員から、今回混乱が生じた理由は何かとの質疑があり、これに対し、高嶋総合政策学部長から、原因を確認してはいるが、履修希望者は年度によって変動があり、明確な原因は不明であるとの回答があった。

鈴木学長から、端末室等の施設活用を行うことで対応できないかとの意見があった。

また、関屋教育支援室長から、新型コロナウイルス感染症のため収容人数を制限していること、混乱が生じた事例のコマは共通講義棟が込み合う時間帯であったことの説明があった。

鈴木学長から、各学部で話していく必要がある議題であり、実態の検討を行うよう発言があった。

#### 報告事項（口頭報告）

##### (1) 令和2年度岩手県立大学の就職内定状況（3月末現在）について

三上学生支援本部長から資料に基づき、令和2年度岩手県立大学の就職内定状況について説明があった。

鈴木学長から、オンラインのインターンシップについて、岩手県の企業は首都圏と違って大人しいため、大学側がツールを提供する等の場所を作ることはできないかとの意見があり、これに対し、鎌田学生支援室長から、既に経済同友会の協力企業からオンラインでのインターンシップのノウハウ映像を借りて東北インターンシップ協議会の加盟企業に見える形で案内していること、オンライン選考については、県外企業が多いので本学よりは県の仕事になること、いわて働こう推進協議会でも機会があれば意見を出していくことは可能であることについて説明があった。

委員から、ポータルサイトの登録について、学生がパスワードを忘れたためにキックオフのガイダンスの事前予約ができないことがあるので、そういう学生がいる可能性があることを念頭にガイダンスを進めてもらえるとありがたいとの意見があった。

##### (2) 本学出身の自治体職員を通じた自治体との連携強化について

狩野副学長兼研究・地域連携本部長から資料に基づき、本学出身の自治体職員を通じた自治体との連携強化について説明があった。

鈴木学長から、自治体側に、大学の情報を得ることがきるなどのメリットが必要であるとの発言があった。

藤澤研究・地域連携室長から、各自治体で同じ課題に直面していることが多く、本学のOBを通じて課題の情報収集・解決を行うこと等のメリットを出していきたいとの説明があった。

また、委員から、任期が1年は短く、最初は1年でも、2、3年続けてもらうことにより効果は確実に出てくるとの意見があった。

委員から当面のモデルケースは総合政策学部と社会福祉学部の卒業生各1名と限定しているのはなぜなのか質問があり、これに対し、藤澤研究・地域連携室長から、学部限定という意図ではなく、今後、モデルケースでの実施状況等を見ながら、必要に応じて運用を見直していきたいとの説明があった。

鈴木学長から、宮古短期大学も盛岡短期大学にも拡大していくとよいとの発言があった。

(3) 矢巾町との包括連携協定について

狩野副学長兼研究・地域連携本部長から資料に基づき、矢巾町との包括連携協定について説明があった。

鈴木学長から 36 ページの図にあるデータ連携基盤とはどのようなものかの質疑があり、これに対し、橋本企画本部長から、データ連携基盤という言葉を使っているが具体的に何をするかというと、課題整理をしていかななくてはいけないものだとの説明があった。

(4) デジタルオープンキャンパス 2021 の開催について

橋本企画本部長から資料に基づき、デジタルオープンキャンパス 2021 の開催について説明があった。

鈴木学長から、対面になってもデジタルオープンキャンパスは実施した方が良いとの発言があった。また、中学生やその親に対しても大学の中身が伝わると良いとの発言があった。

(5) THE 世界大学ランキング日本版 2021 の結果について

橋本企画本部長から資料に基づき、THE 世界大学ランキング日本版 2021 の結果について説明があった。

(6) 第三期中期計画期間における収支ギャップに対する取組みに係る令和 2 年度実績及び令和 3 年度目標について

鈴木次長兼総務室長から資料に基づき、第三期中期計画期間における収支ギャップに対する取組みに係る令和 2 年度実績及び令和 3 年度目標について説明があった。

**報告事項（資料報告）**

- (1) 令和 2 年度 F D ・ S D の実績について（資料 No. 8）
- (2) 令和 4 年度サバティカル研修者の推薦依頼について（資料 No. 9）
- (3) 入試説明会の開催について（資料 No. 10）
- (4) 令和 3 年度岩手県高等学校長協会・岩手県立大学懇談会の開催について（資料 No. 11）
- (5) 全学競争研究費の公募開始について（資料 No. 12）
- (6) 令和 3 年度地域協働研究の採択課題の決定について（資料 No. 13）
- (7) 令和 3 年度臨時託児の利用登録申込について（資料 No. 14）
- (8) 「令和 3 年度第 1 回職員衛生委員会」の結果について（資料 No. 15）

**その他**

関屋教育支援室長から、共通講義棟の 1 階にある高等教育推進センターの事務室を共通講義棟の事務室と誤解し、授業機材のトラブル、消耗品の補充、授業用資料のコピーなどの問い合わせを受けているが、本来は、本部棟の教育支援室を窓口とするよう説明があった。

委員から、本学が岩手県にとって必要な人材を地域に輩出できているか、また、卒業生を地域でさらに育てていく環境づくりができているかという課題について説明があった。

加えて、キャンパスを用いた先進技術の活用モデルの提供について、より積極的に取り組んでみるのも良いのではないかとの発言があった。